

第1回きのこ生産の持続性強化に向けた方策検討会

議事概要

1. 日 時 令和8年8月3日（月）15:15～17:00

2. 場 所 農林水産省三番町共用会議所

3. 出席者

（委員）大塚委員、加藤委員、前澤委員、増野委員、松本委員、吉井委員

（農林水産省）広瀬農林水産大臣政務官、清水林政部長、布施経営課長、

鈴木特用林産対策室長、岡部課長補佐、中川課長補佐

4. 議事概要

林野庁からきのこ生産をめぐる状況について説明を行い、委員による生産現場の状況などを踏まえた意見交換を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・ 輸入資材価格の高騰等により生産コストが上昇している一方、市場出荷が中心の中小生産者は、コスト上昇分を販売価格へ転嫁しにくい。「きのこの価格は安くて安定」というイメージが価格引上げの障害となっている。
- ・ 生産施設の維持・更新費用まで含めた価格設定が必要だが、現状では十分に反映されていない。きのこの価値を上げながら、消費の拡大と需要量増加を図るという課題が基本的に重要である。
- ・ 自己資本比率が低く、新たな設備投資が難しい経営状況にある生産者も多く、設備更新時に廃業を検討する場合もある。
- ・ 生産者が減少しており、後継者や新規就農者の確保・育成が重要。
- ・ 資材について、輸入コーンコブの代替材として考えられるスギのおが粉は、収量が落ちることやアク抜きの手間がかかること、安定的な確保に課題があり、切り替えは難しい。
- ・ 国産おが粉や有機 JAS は付加価値となる一方、コスト増を価格に反映しても消費者に受け入れられるかが課題。
- ・ 大手と中小・家族経営では課題が異なるため、検討対象や論点を整理して議論を進める必要がある。

（以上）